

平成30年度 第37回全国高校生建築製図コンクール結果報告

製図コンクール運営委員長 ト部 寿々子

第37回全国高校生建築製図コンクールには、東日本建築教育研究会の加盟校および加盟校以外の先生方から、校務ご多忙にもかかわらず絶大なるご協力を頂きました事を厚くお礼申しあげます。

[I] 応募状況

1 応募校数

応募校数		全日制		定時制		加盟校				加盟校以外			
						全日制		定時制		全日制		定時制	
H30	H29	H30	H29	H30	H29	H30	H29	H30	H29	H30	H29	H30	H29
49校	55校	44校	52校	5校	3校	39校	47校	5校	3校	5校	5校	0校	0校

2 応募作品数

課題名	加盟校別	回数	学校数・作品数		全日制・作品数		定時制・作品数	
課題1	加盟校	H30	41校	107点	36校	97点	5校	10点
		H29	42校	104点	39校	99点	3校	5点
	加盟校以外	H30	5校	13点	5校	13点	0校	0点
		H29	4校	9点	4校	9点	0校	0点
課題2	加盟校	H30	11校	25点	11校	25点	0校	0点
		H29	14校	32点	14校	32点	0校	0点
	加盟校以外	H30	1校	3点	1校	3点	0校	0点
		H29	2校	6点	2校	6点	0校	0点
課題3	加盟校	H30	17校	36点	17校	36点	0校	0点
		H29	23校	53点	22校	52点	1校	1点
	加盟校以外	H30	1校	3点	1校	3点	0校	0点
		H29	1校	3点	1校	3点	0校	0点
課題4	加盟校	H30	8校	14点	8校	14点	0校	0点
		H29	13校	31点	13校	31点	0校	0点
	加盟校以外	H30	1校	3点	1校	3点	0校	0点
		H29	2校	5点	2校	5点	0校	0点
課題5	加盟校	H30	5校	6点	5校	6点	0校	0点
		H29	7校	16点	7校	16点	0校	0点
	加盟校以外	H30	1校	3点	1校	3点	0校	0点
		H29	1校	3点	1校	3点	0校	0点
応募校計		H30	213点 (加盟校 188点・加盟校以外 25点)					
		H29	262点 (加盟校 236点・加盟校以外 26点)					

3 校内作品審査数の総計

		課題 1	課題 2	課題 3	課題 4	課題 5
加盟校	H30	1,411点	320点	422点	23点	7点
	H29	1,352点	374点	551点	56点	33点
加盟校 以外	H30	91点	3点	3点	4点	3点
	H29	13点	17点	4点	17点	3点
応募校計	H30	1,502点	323点	425点	27点	10点
	H29	1,365点	391点	515点	73点	36点

[Ⅱ] 入賞者

	賞	学校名	科名学年	生徒氏名
課題 1 : 軒先マワリ詳細図				
1	金賞	岐阜県立大垣工業高等学校	建設工学科 1 年	有馬 美羽
2	銀賞	栃木県立真岡工業高等学校	建設科 1 年	小崎 沙月
3	銀賞	静岡県立浜松工業高等学校	建築科 1 年	大場 えみ
4	銀賞	宮城県石巻工業高等学校	建築科 1 年	保原 愛奈
5	銀賞	埼玉県立春日部工業高等学校	建築科 1 年	笹 葵未花
6	銅賞	栃木県立真岡工業高等学校	建設科 1 年	林 亜希
7	銅賞	宮城県古川工業高等学校	建築科 1 年	小椋 蒼
8	銅賞	山梨県立富士北稜高等学校	建築デザイン系列 2 年次	荒井 結衣
9	入賞	栃木県立真岡工業高等学校	建設科 1 年	小菅 杏珠
10	入賞	長野県飯田 OIDE 長姫高等学校	建築学科 1 年	早水 美月
11	入賞	宮城県古川工業高等学校	建築科 1 年	泉 まこ
12	入賞	宮城県古川工業高等学校	建築科 1 年	宮嶋 悠花
13	入賞	愛知県立豊橋工業高等学校	建築・土木科 1 年	園田 麻衣
14	入賞	山梨県立富士北稜高等学校	建築デザイン系列 2 年次	堀内 南徳
15	入賞	埼玉県立春日部工業高等学校	建築科 1 年	野中 理央
16	入賞	群馬県立前橋工業高等学校 定時制	建築科 2 年	松村 真穂
17	入賞	神奈川県立神奈川工業高等学校 定時制	建設科 1 年	八木 恒星
課題 2 : 木造平家建専用住宅				
1	銀賞	岐阜県立岐南工業高等学校	建築科 2 年	今城 疾風
2	銀賞	愛知県立豊橋工業高等学校	建築科 2 年	水野 那奈美
3	銀賞	神奈川県立神奈川工業高等学校	建設科 2 年	蛭澤 舞友
4	銅賞	神奈川県立神奈川工業高等学校	建設科 2 年	寺崎 唯純
5	銅賞	松山聖陵高等学校	建築科 2 年	宇都宮 紗帆
6	銅賞	松山聖陵高等学校	建築科 2 年	濱邊 麻帆
7	入賞	岐阜県立岐南工業高等学校	建築科 2 年	長屋 百美
8	入賞	松山聖陵高等学校	建築科 2 年	安田 了将
9	入賞	岐阜県立可児工業高等学校	建設工学科 2 年	山田 智哉
10	入賞	長野県飯田 OIDE 長姫高等学校	建築学科 2 年	小林 美友

11	入賞	愛知県立豊橋工業高等学校	建築科 2 年	林 茉莉那
12	入賞	栃木県立宇都宮工業高等学校	建築デザイン科 2 年	村川 智秋
課題 3 : 木造 2 階建専用住宅				
1	銀賞	松山聖陵高等学校	建築科 3 年	魚住 龍矢
2	銅賞	新潟県立新潟県央工業高等学校	建設工学科 3 年	黒田 直也
3	銅賞	岐阜県立岐南工業高等学校	建築科 3 年	中村 華奈未
4	銅賞	長野県飯田 OIDE 長姫高等学校	建築学科 3 年	織田 渚
5	銅賞	神奈川県立神奈川工業高等学校	建設科 3 年	齋藤 桃香
6	入賞	岐阜県立岐南工業高等学校	建築科 3 年	鈴木 冴夏
7	入賞	静岡県立浜松工業高等学校	建築科 2 年	森下 彩里
8	入賞	宮城県石巻工業高等学校	建築科 2 年	水口 璃音
9	入賞	愛知県立豊橋工業高等学校	建築科 3 年	及部 捺代
10	入賞	愛知県立豊橋工業高等学校	建築科 3 年	山本 芽依
11	入賞	神奈川県立神奈川工業高等学校	建設科 3 年	足立 紗也
12	入賞	神奈川県立神奈川工業高等学校	建設科 3 年	鈴木 美桜
13	入賞	松山聖陵高等学校	建築科 3 年	宮谷 昂規
14	入賞	栃木県立宇都宮工業高等学校	建築デザイン科 3 年	金澤 加偉
課題 4 : 木造平家建専用住宅 (CAD 製図)				
1	銀賞	松山聖陵高等学校	建築科 3 年	池田 勇介
2	銅賞	松山聖陵高等学校	建築科 3 年	田口 翔大
3	入賞	愛知県立半田工業高等学校	建築科 3 年	梅田 大翔
4	入賞	栃木県立宇都宮工業高等学校	建築デザイン科 2 年	神山 颯斗
課題 5 : 木造 2 階建専用住宅 (プレゼンテーション作品)				
1	金賞	松山聖陵高等学校	建築科 3 年	玉井 辰欣
2	銀賞	松山聖陵高等学校	建築科 3 年	池田 勇介
3	銅賞	岐阜県立可児工業高等学校	建設工学科 3 年	加藤 由輝
4	銅賞	栃木県立真岡工業高等学校	建設科 3 年	菊地 亮汰
5	銅賞	松山聖陵高等学校	建築科 3 年	中川 優奈
6	入賞	神奈川県立神奈川工業高等学校	建設科 3 年	緒方 瑞希
7	入賞	埼玉県立春日部工業高等学校	建築科 3 年	大島 綺音

[Ⅲ] 審査

1 賞の選出

- (1) 各課題最高作品を金賞とし、順次銀賞銅賞入賞とする。
- (2) 各課題定時制課程参加作品から入賞以上を選出する。

2 審査方法

(1) 一次審査

- ア 審査は委員全員で行う。
- イ 原図を使用する。
- ウ 各課題参加数の1/5程度(最大20点程度)を目安に絞り、入賞作品の対象とする。
- エ 審査基準は、各課題の観点に従う。
- オ 作品を相対的に比較する。

(2) 二次審査

- ア 審査は委員全員で行う。
- イ 表題欄をカットする。
- ウ 複写図面を使用し、チェックを書き込む。
- エ 入賞作品以外の作品で再度入賞以上に該当するものがないか確認する。

(3) 最終決定

- ア 最終決定を投票で行う。

3 課題別審査の観点

(1) 課題1「軒先マワリ詳細図」

注意：最新版の教科書を用いているか。

- ア 図が正確に描かれているか。(部材の大きさや厚み・金物等の形状・部材相互の距離等)
- イ 明瞭な図であるか。(線の使い分け・線の始端から終端までが均一な太さ、濃さであるか)
- ウ 文字や数字は明瞭で正確であるか。(抜けている、大きすぎる、小さすぎる、形状がバラバラ等)
- エ その他

松丸太に関して

- ・太鼓落しを表現する曲線はフリーハンドより定規使用の方が良い。
- ※ただし曲線がフリーハンドで描かれていても失格ではない。

野縁に関して

- ・位置は軒桁中心から測られているか。

天井に関して

- ・位置が製図例2-6に基づいているか。

線の使い方に関して

- ・下書き線が濃すぎないか。
- ・仕上げ線(断面線)が極端に太すぎないか。

(2) 課題2「木造平家建専用住宅」

- ア 敷地の配置、外構計画に工夫があるか。
- イ 平面図は正確に描かれているか。(教科書第3章に準じているか)
- ウ 立面図に工夫があるか。(窓の形状や種類、位置等が平面図と異なっていないか)
- エ 断面図に工夫があるか。(屋根形状を生かした内部空間であるか)

- オ 屋根の形状に工夫があるか。(機能を果たす屋根の形状であるか)
- カ 図面相互に違いがないか。
- キ 明瞭な図であるか。(線の使い分けが正しいか)
- ク 製図規約を重視しているか。
- ケ その他

配置図兼平面図に関して

- ・道路境界線、隣地境界線と建物の距離が抜けていないか。
- ・隣地境界線を実線で描く等、線の使い方を間違えていないか。
- ・床の仕上げを表現していないか。
- ・ロフトを計画した場合はそれを描いているか。

立面図に関して

- ・全体的なバランスが良いか。

断面図に関して

- ・平面図に記された切断線の位置との違いがないか。
- ・ロフトを計画した場合はそれを描いているか。
- ・ロフトの天井が極端に高くないか。

屋根伏図に関して

- ・水勾配や寸法が記入されているか。
- ・屋根仕上げに用いた材料名称が描かれているか。
- ・断面線の表示がされているか。

(3) 課題3「木造2階建専用住宅」

- ア 計画性を重視する。
- イ 配置・平面・立面・断面・外構の計画に工夫があり機能的であるか。
- ウ 構造的に無理がないか。
- エ 製図規約に配慮しているか。
- オ その他

設計主旨に関して

- ・主旨と計画に違いがないか。

配置図兼平面図に関して

- ・道路境界線、隣地境界線と建物の距離が抜けていないか。
- ・家族構成に対して、所要室や各室の面積に配慮しているか。
- ・将来的に高齢者に配慮した計画であるか。
- ・外構計画において高低差に配慮しているか。
- ・車と駐車スペースの大きさや表記方法に違いがないか。
- ・平面図に家具が記入されているか。
- ・平面図に柱や通し柱が抜けていないか。
- ・平面図に記された階段の段数は正確か。
- ・平面図に記された階段には、手すりを設けているか。

立面図に関して

- ・平面図との違いがないか。
- ・全体的なバランスが良いか。

断面図に関して

- ・切断位置が開口部を含む位置であるか。

- ・形状が不適切でないか。（異常に高すぎる，低すぎる）
- ・高さに関する寸法の記入があるか。

（４）課題４「木造平家建専用住宅」（ＣＡＤ製図）

注意：２枚提出されているか。（１枚しか提出されていない場合は失格とする）

- ア 敷地の形状や配置・外構計画に工夫があるか。
- イ 平面図は正確に描かれているか。（教科書第３章に準じているか）
- ウ 立面図に工夫があるか。（窓の形状や種類，位置等が平面図と異なっていないか）
- エ 断面図に工夫があるか。（屋根形状を生かした内部空間であるか）
- オ 屋根の形状に工夫があるか。（機能を充たす屋根の形状であるか）
- カ 図面相互にくい違いがないか。
- キ 明瞭な図であるか。（線の使い分けが正しいか）
- ク 製図規約を重視しているか。
- ケ その他
 - ・ロフトを計画した場合は，それを平面図や断面図等に描いているか。
 - ・手書き表現で描かれているか。（ＣＡＤ特有の表現のままでないか）

（５）課題５「木造２階建専用住宅」（プレゼンテーション作品）

注意：２枚提出されているか。（１枚しか提出されていない場合は失格とする）

- ア プレゼンテーション・表現を重視する。（プレゼンテーションと作りだされている作品が一致しているか）
 - ・パース，模型，説明，着色等で判断する。
- イ 製図規約については重視しない。
- ウ その他
 - ・計画や表現はオリジナリティがあるか。
 - ・各図面間での整合性はあるか。
 - ・縮尺については重視しない。
 - ・表面に氏名等を記入しない。

[IV] 審査講評

課題1 軒先マワリ詳細図
<p>金賞図面は、文字のムラなどが見当たらず美しく整っており、バランスがよい作品でした。また、1本1本の線がハッキリとしており、安定している線で、メリハリのある大変美しい作品でもありました。</p> <p>金賞以外の図面についても、丁寧かつ、正確に描かれている作品が多く見受けられたが、2次審査はコピー図面で審査をするため、引き出し線などにムラ（強弱）があるとコピーにハッキリをと写り、作品の出来映えにも大きく影響を与えている作品がありました。</p> <p>【アドバイス】</p> <p>次年度は、直線や垂線を美しく安定して描けるように、基本的なことを習得してください。</p>
課題2 木造平家建専用住宅
<p>金賞図面は、ありませんでした。</p> <p>金賞以外の図面についても、細かく丁寧に作図している作品や立体を工夫し全体をまとめている作品が見受けられました。線が美しく作図力も高い図面もあったが、外構の計画や表現力が乏しい作品がありました。</p> <p>【アドバイス】</p> <p>次年度は、造園の計画も大切だが、基本的な作図能力を養い、断面線の切断場所や線の使い分けなどを工夫してください。</p>
課題3 木造2階建専用住宅
<p>金賞図面は、ありませんでした。</p> <p>金賞以外の図面についても、昔ながらの土間を活かした老夫婦の生活を考えていることがうかがえたりする図面があったが、明らかに構造的に柱が不足しているであろうという図面もありました。</p> <p>【アドバイス】</p> <p>次年度は、生活する側の視点を大切にしつつも、より良い作品になるよう検討を重ね、老夫婦に優しい作品を期待します。</p>
課題4 木造平家建専用住宅（CAD製図）
<p>金賞図面は、ありませんでした。</p> <p>金賞以外の図面についても、CADの特性を活かしてしっかりと作図している作品がありましたが、寸法の記載の仕方が間違っており、組立基準線のXY軸が目立ち過ぎてバランスが悪い作品も目立ちました。また、印刷する際の設定が不十分なのか、線種のメリハリがない作品が多数、見受けられました。</p> <p>【アドバイス】</p> <p>次年度は、画面上で見ている作品と紙面上では大きく異なるため、完成図面を一度印刷してから、全体的なバランス等を確認していただくと単純なミスは防げるかと思えます。</p>
課題5 木造2階建専用住宅（プレゼンテーション作品）
<p>金賞図面は、レイアウトを工夫し、コンセプトが受け手に伝わるようにプレゼンテーションされている作品でした。また、パース等の表現が見やすいだけでなく、わかりやすく見応えのある作品でした。</p> <p>金賞以外の図面についても、CADで描いただけでなく、細部までこだわって作図している図面や、イメージを伝えようと努力している跡が感じられる作品が見受けられました。</p> <p>【アドバイス】</p> <p>次年度は、様々な手法を凝らし、第37回を超える作品を期待します。</p>

[V] 2019年に向けて

- 1 課題1 軒先マワリ詳細図
平成30年度 新課程版教科書発刊に伴う、製図例の変更。
2019年 例年通りとする。

- 2 課題2 木造平家建専用住宅
平成30年度 新課程版教科書発刊に伴う、製図例の変更。図面に一部変更有り。
2019年 例年通りとする。

- 3 課題3 木造2階建専用住宅
平成30年度 法規・構造に配慮した、個性的な作品を期待する。
2019年 例年通りとする。

- 4 課題4 木造平家建専用住宅（CAD製図）
平成30年度 課題2を手書きの表現で作図するCAD製図。図面に一部変更有り。
2019年 例年通りとする。

- 5 課題5 木造2階建専用住宅（プレゼンテーション作品）
平成30年度 プレゼンテーションを重視した作品。
2019年 例年通りとするが、家族構成は各自で設定する。

- 6 共通事項 課題1～課題4の表題欄に課題番号を記入する。

今年度も審査講評を参考にいただき、ご応募くださるようお願い申し上げます。なお、ホームページに各課題の金賞作品を記載しております。

製図コンクール運営委員

	佐藤 康雄 (神奈川工定)	高野 史晃 (真岡工)	
(製図分科会)	村井 和幸 (新潟県央工)	笹崎 ひろみ (墨田工)	中曽根 康 (前橋工定)
	國島 かほり (神奈川工)		
(計画分科会)	荒木 宏道 (館林商工)	畠山 弘幸 (石巻工)	
	田村 雄志 (川崎総合科学)		
(法規分科会)	大木 英男 (藤沢工科)	萱沼 俊一 (白石工)	
(構造分科会)	菅谷 太郎 (春日部工)	松原 昌忠 (田無工)	
(施工分科会)	吉村 公利 (大宮工)	平柳 政幸 (日工大駒場)	

2019年4月1日
製図コンクール運営委員長
卜部 寿々子